

令和7年度尾張旭市一般会計補正予算（第3号）

討論要旨 山下幹雄議員

11億7,000万を越す追加補正の主要内容には、地域要請の高い折り畳みごみボックス購入補助金や民間木造住宅等耐震改修費補助金など、期待を持って見守る市民も多く、私はそのように推察をしています。

しかしながら、今後も多くの市民サービスや市民の安全・安心に配分すべき予算において、引き続き課題を想像させる公立陶生病院組合への負担金増額補正に対し、懐疑的視点を持ち、あえて反対としました。

2億1,400万円の増額は、物価高騰の影響により厳しい経営状況が続く中、地域医療の中核を担う公立病院として安定した病院経営が維持できるよう、組合構成市で負担を増額するものということです。

本件当初予算は、令和6年度決算ベース3億9,520万円を3,000万円以上上回る4億2,800万円でした。今回の追加を合わせますと6億4,200万円となります。増額理由の物価高騰や人件費の上昇は、公立、民間を問わず、全国的で、全ての分野において課題です。

そうした中でも、創意工夫や熟慮、英断の中、経営の安定化を求める事例は多くあります。対照的に、足りないから負担金増額で賄い続けられれば、本市の市政運営のさらなる足かせとなりかねません。

もし組合経営の連帯責任と言われるなら、本市としても、今まで以上に経営の改善・改革案を現場に提示し、今後、決断すべきときが来たならば、本市執行部、組合議会は、躊躇、忖度することなく議論に臨んでいただきたいと思います。

私は、尾張旭市の市民の代表として、20分の1ではありますが、議席をお預かりしている責任を自覚しております。本件は対外的な色彩が強い予算執行案ではありますが、仕方がないで可決されては、誤ったメッセージを送りかねません。

この後は私ども会派の代表が賛成討論を予定されていますが、賛否表現の差異はあれど、目指すところは同じと考え、私なりの政治信条として反対討論を実施いたしました。